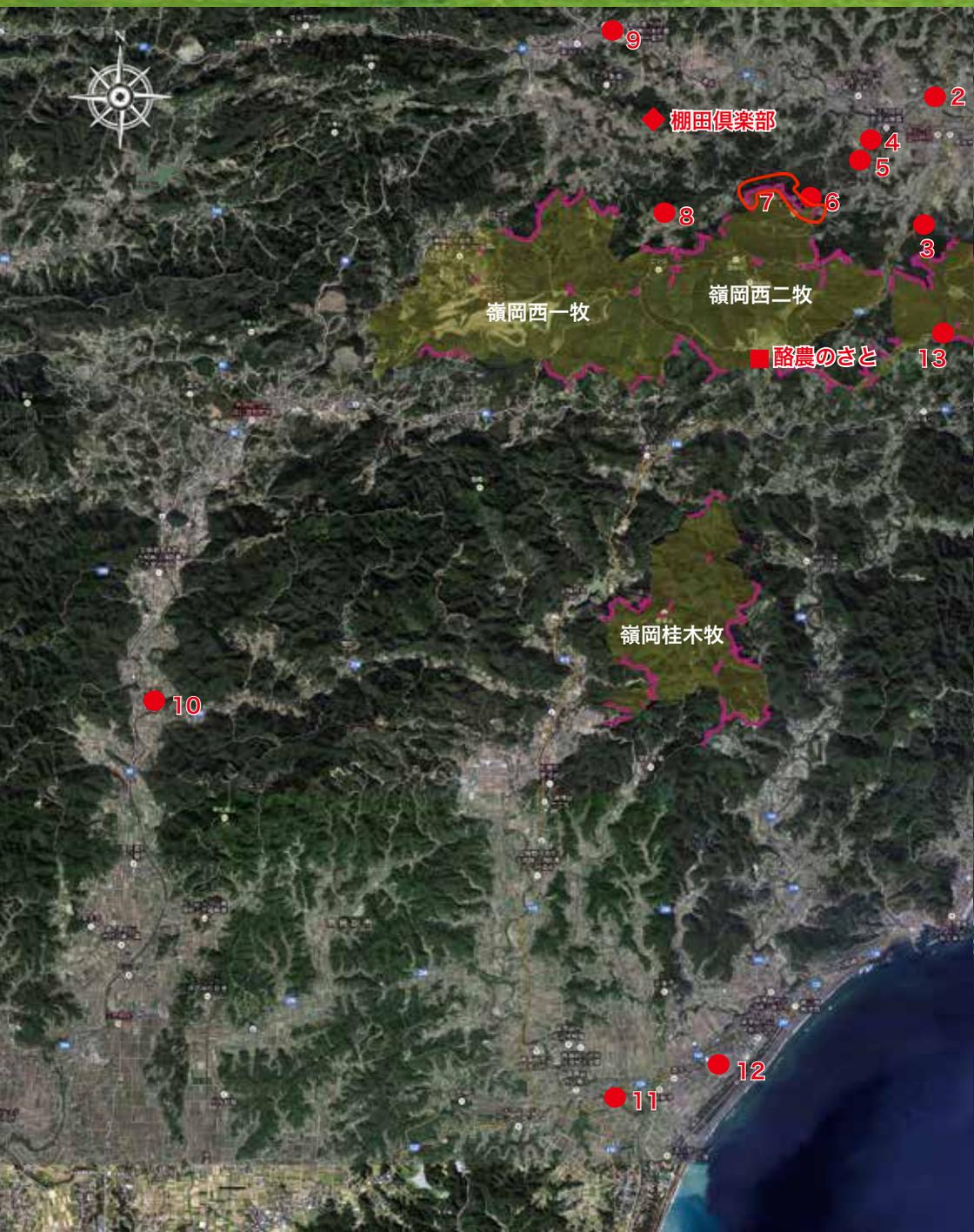


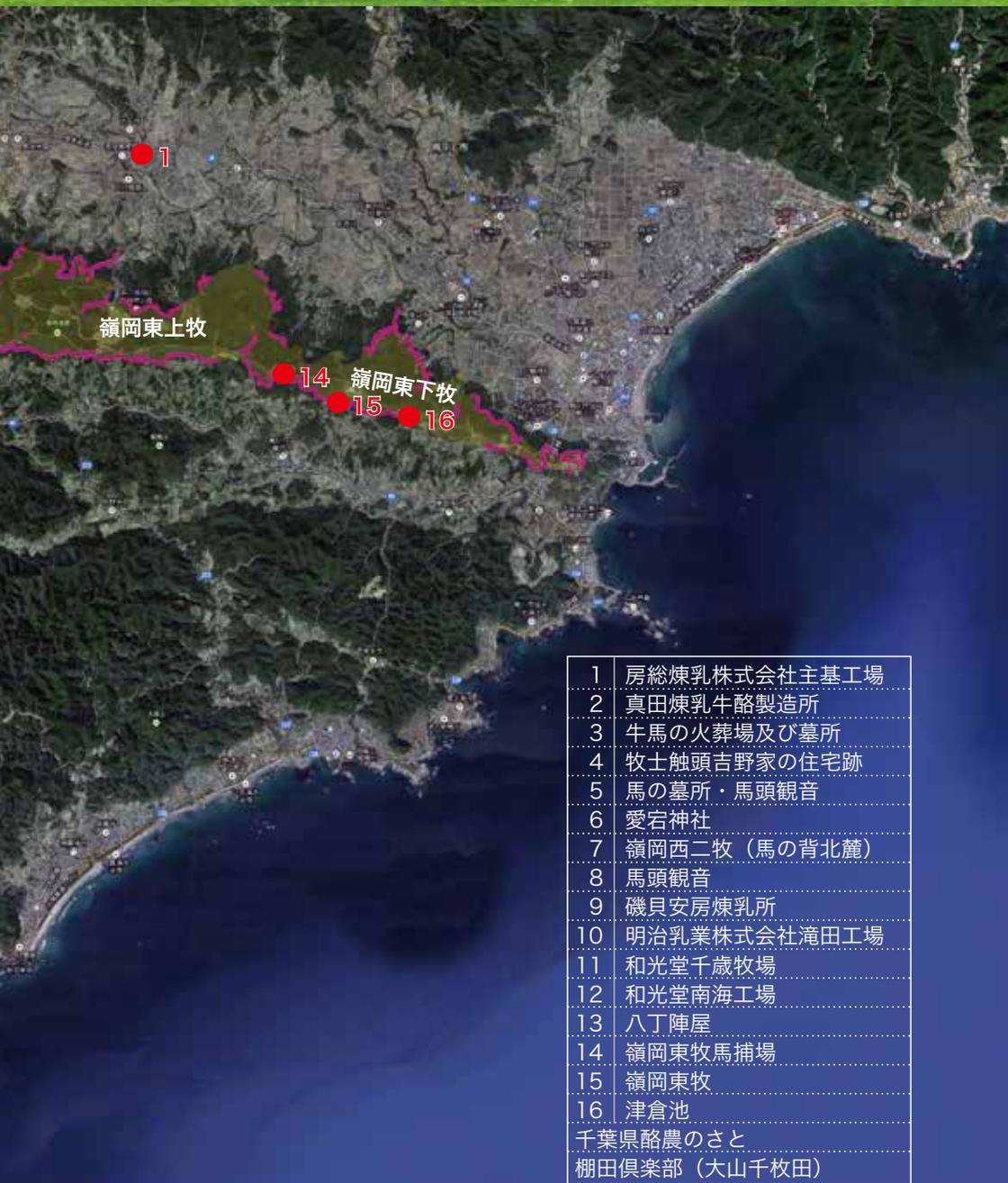
エクスカージョン 2016

嶺岡牧



エクスカーション 2016 嶺岡牧文化遺産地図





1	房総煉乳株式会社主基工場
2	真田煉乳牛酪製造所
3	牛馬の火葬場及び墓所
4	牧士触頭吉野家の住宅跡
5	馬の墓所・馬頭観音
6	愛宕神社
7	嶺岡西二牧（馬の背北麓）
8	馬頭観音
9	磯貝安房煉乳所
10	明治乳業株式会社滝田工場
11	和光堂千歳牧場
12	和光堂南海工場
13	八丁陣屋
14	嶺岡東牧馬捕場
15	嶺岡東牧
16	津倉池
千葉県酪農のさと	
棚田倶楽部（大山千枚田）	



1 房総煉乳株式会社主基工場



明治乳業主基工場遺跡は 2014 年秋に未調査で完全に壊滅された



門のみ残っていた 2014 年 1 月当時



明治乳業主基工場の名残は全く無い



1960 年頃の明治乳業主基工場

磯員安房煉乳所を買収して 1916 (大正 5) 年設立した房総煉乳株式会社が、1918 (大正 7) 年に主基工場を建設。1920 (大正 9) 年に合併した東京菓子株式会社 (1924 年に明治製菓株式会社に改称) の製乳部となる。1945 (昭和 20) 年 1 月、統制会社千葉県酪業株式会社に統合。旧明治製菓が 1947 (昭和 22) 年に朝日乳業株式会社、1950 (昭和 25) 年に明治乳業株式会社に合併。



2 真田煉乳牛酪製造所



加茂川の畔につくられていた真田煉乳牛酪製造所の跡

1906（明治39）年に真田倉治が煉乳、バターを製造する真田煉乳牛酪製造所を設立。1913（大正2）年に嶺岡農場煉乳製造所と改称。1916（大正5）年愛国煉乳合資会社に、1917（大正6）年日本煉乳株式会社（後の森永乳業）に譲渡。



嶺岡山にある嶺岡牧種畜場の牛乳処理を引受けた



発掘された真田煉乳牛酪製造所の井戸



真田煉乳牛酪製造所



3 牛馬の火葬場及び墓所



R410 をつくる時に集められた馬頭観音群



樹枝状の丘陵先端部に6基の馬頭観音が建つ（文化14年：1基、明治期：4基、不明：1基）

牛が死ぬと、集落の端にあたる馬頭観音群がある丘陵の下で火葬にし、丘陵裾を

カッティングしてつくり出した平坦面に埋葬した。



4 牧士触頭吉野家の住宅跡



嶺岡牧の牧士触頭であった吉野家（下酒屋）住宅跡



住宅跡近くにつくられた牧士触頭であった吉野家の墓地

1722（享保7）年に嶺岡牧を復興した八代将軍徳川吉宗は、庄屋が兼務していた村牧士を廃止し、新たに牧士を定めた。吉野五郎兵衛は、6名の牧士を増員し、給金を

四両二人扶にした1734（享保19）年に牧士に任命された。1760（宝暦10）年、吉野五郎兵衛は、御馬預と牧士の間を結ぶ役として設けられた牧士触頭となった。



5 馬の墓所・馬頭観音



吉野五郎兵衛が1849（嘉永2）年12月16日に建てた馬の墓標



慶應2の紀年銘



墓標と同じ年月日の（右）と類似の文言（左）の馬頭観音

牧士触頭の吉野五郎兵衛宅から嶺岡牧に入る道脇に、馬の墓標と馬頭観音が隣接し

て建てられている。造立日、文言から馬頭観音も吉野五郎兵衛造立とみられる。



6 愛宕神社

8



祭神の軻遇突智命



↑ 関東一大きい石宮 牧に接する尾根にある愛宕神社 ↓

嶺岡牧には火の神を祭神とする愛宕神社が多い。野焼きをして嶺岡牧を管理してきたこととの関連が考えられる。石宮や階段は、嶺岡牧細野石切丁場産の石材でつくられている。



↑ 祭礼の獅子舞 境内から海を望む→





7 嶺岡西二牧（馬の背北麓）





←馬の背北麓のエリア区分

↑嶺岡西二牧（右の峰より、馬の背、大塚、猿塚、愛宕山）

八代将軍徳川吉宗が「醍醐」をつくるため白牛を放して酪農を始めた嶺岡西二牧のうち、独立丘状の馬の背北麓には、嶺岡牧の特徴である石切跡が広く展開している。

独立丘状の馬の背北麓の中腹部に野馬土手が廻っている。この地域の嶺岡牧は、細野集落と北風原集落が管理している。細野地点は、埋め立てられたところを除き、木戸跡により4区に分けられた。

細野地点 1 区



土盛の野馬土手。西端に、集落への古道と蛇紋岩・嶺岡頁岩を積んだ木戸跡が残る。



愛宕神社脇に築かれた土盛りの野馬土手

木戸部からみた野馬土手



細野地点 2 区



凝灰質砂岩を積んだ野馬土手



土手全面を石積みした野馬土手

細野地点2区の野馬土手には、多くの矢穴石が積まれている。2区は、母岩とした凝灰質砂岩の巨礫、残石、木端石塚、石の採掘坑など、石切丁場遺構が揃っている。



斜めに割れ長方形の矢穴が残る母岩（右）と放置された四角錐状の残石（左）



←木端石塚

↓石の採掘坑





2区 - No.1



2区 - No.2



2区 - No.3



2区 - No.4



2区 - No.5



2区 - No.6



2区 - No.7



2区 - No.8



2区 - No.9



2区 - No.10



2区 - No.11



2区 - No.12



2区 - No.13



2区 - No.14



2区 - No.15



2区 - No.16



2区 - No.17



2区 - No.18



2区 - No.19



2区 - No.20



2区 - No.21



2区 - No.22



2区 - No.23

細野地点2区の矢穴石

細野地点 3 区



3区東端に築かれた土盛りの木戸跡

細野地点3区は矢穴石が少ない。野馬堀の内側の山道は、3区東端の木戸から集落に至る古道につながる。山道には荷車の轍痕が残っている。



3区-No.1



3区-No.3



3区-No.2



3区-No.4

細野3区の矢穴石



石積みの野馬土手



野馬土手・野馬堀・山道

細野地点 4 区



巨礫を利用した4区東端（3区 - 4区境界）の木戸跡



4区西端の土盛りの木戸跡



野馬土手の内側に石積みした野馬土手



4区は、古道から入る木戸跡が東西端に、木戸脇に建物跡と考えられる平坦面が残っている。野馬土手沿いだけでも、石の採掘坑2基、巨礫の母岩と残石、4基の木端石塚、野馬土手の礫などの多くの矢穴石と、石切の遺構が集中している。

←建物跡とみられるコ字状の平坦面



巨礫脇に方形に掘られたNo.1石の採掘坑



方形に掘り込んだ土が土手状に廻り周辺に矢穴石が多く分布する採掘坑No.2



巨礫の母岩と残石



矢穴が残る母岩が点在する



木端石塚No.1 →
木端石塚No.3 ↓



木端石塚No.2



木端石塚No.4





4区 - No.1



4区 - No.2



4区 - No.3



4区 - No.4



4区 - No.5



4区 - No.6



4区 - No.7



4区 - No.8



4区 - No.9



4区 - No.10



4区 - No.11



4区 - No.12



4区 - No.13



4区 - No.14



4区 - No.15



4区 - No.16



4区 - No.17



4区 - No.18



4区 - No.19



4区 - No.20

細野地点4区の矢穴石



4区 - No. 21



4区 - No. 22



4区 - No. 23



4区 - No. 24



4区 - No. 25



4区 - No. 26



4区 - No. 27



4区 - No. 28



4区 - No. 29



4区 - No. 30



4区 - No. 31



4区 - No. 32



4区 - No. 33



4区 - No. 34



4区 - No. 35



4区 - No. 36



4区 - No. 37



4区 - No. 38



4区 - No. 39



4区 - No. 40



4区 - No. 41



4区 - No. 42



4区 - No. 43



4区 - No. 44



4区 - No. 45

北風原地点



丘陵斜面に築かれた石積みの野馬土手と野馬堀

細野地点と北風原地点との境に、堀を閉ざす石積がみられる。また、北風原集落への古道入り口までは、二重土手になっている。



野馬土手で内枡形の枡形虎口状に築いた木戸跡

元名の仮囲区

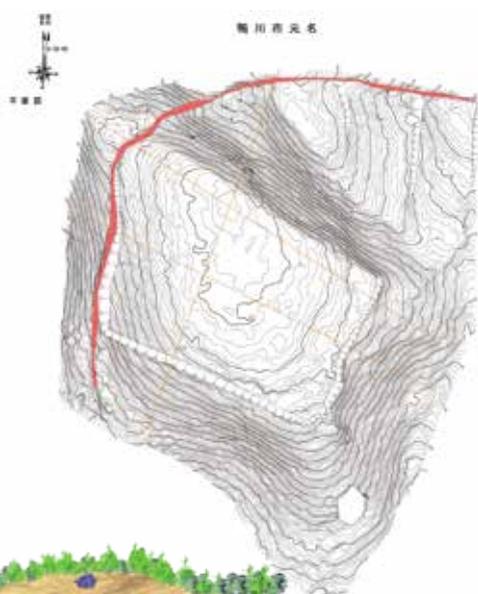


仮囲壁面の石積み



仮囲外部遺構

丘陵をカットし長方形の窪地を造っている



元名に、馬の繁殖管理を行った仮囲が良好に遺存。石積みの土手で谷線を塞ぐ。集落境に石積み遺構がみられる。



元名仮囲の測量図



8 馬頭観音



馬頭観音の左側面と正面

大田代の元高札場に馬頭観音と庚申塔の二つの石仏が建つ。

馬頭観音は、蛇紋岩の自然石を用いた文字塔。舟形に似せて、頭が尖る形に置き、文字を葉研彫で彫り込んでいる。

本体正面の銘：「今月」「馬頭観世音」「今日」。

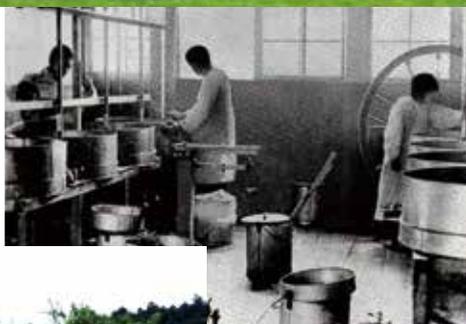
紀年銘が年月日で無く「今月今日」は大山地区の特徴。



9 磯貝安房煉乳所



1893（明治26）年、缶詰洋食料品店である東京海陸社が安房煉乳所を建設してバター・煉乳製造を開始。1900（明治33）年に鈴木安太郎、次いで宮崎徳蔵、1903（明治36）年に磯貝岩次郎に譲渡。商標は鳳凰印。1916（大正5）年に房総煉乳株式会社に譲渡。



↑工場内部



←磯貝安房煉乳所があった所は鴨川消防署長狭分遣所とそれに続く空き地となっている



滝田工場跡

1916（大正5）年、竹沢太一が房総煉乳株式会社の工場として建設。主にバター生産を行った。1920（大正9）年、東京菓子株式会社と合併し製乳部となる。1924（大正13）年明治製菓株式会社と改称。昭和前期から主に粉ミルクを生産。



明治乳業滝田工場





11 和光堂千歳牧場



和光堂千歳牧場の牛舎



1939 (昭和14)年 (~1951年), 和光堂南海工場の原料乳を生産する千歳農場を開設。牧場の牛舎, 事務所, 社宅などが現存している。

和光堂千歳牧場



和光堂千歳牧場の事務所



和光堂の社宅街



12 和光堂南海工場



和光堂南海工場の門柱や花壇を囲う石組み等が残る



和光堂南海工場

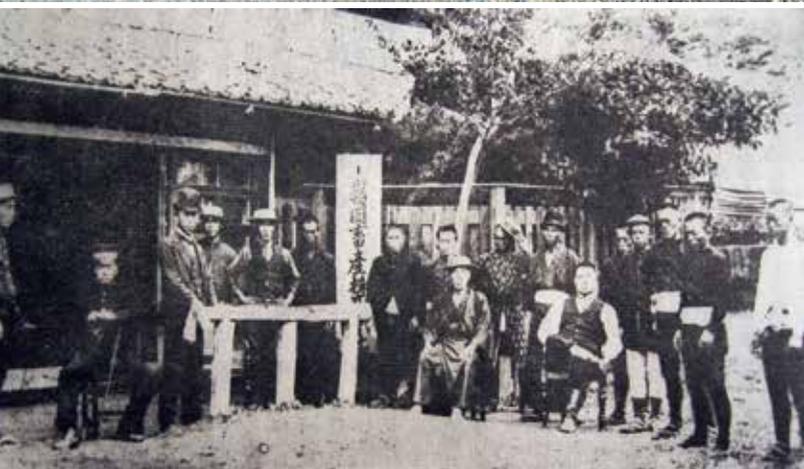
1922（大正11）年に極東煉乳株式会社が工場を設置。1928（昭和3）年、株式会社和光堂が買収。1951（昭和26）年森永乳業株式会社に譲渡。



南海工場のゾーニング
(ヒアリングで作成)



13 八丁陣屋



資材置き場になった陣屋跡

八丁陣屋は、1735（享保20）年に、嶺岡牧を管理するために設けられた。明治期、嶺岡牧社、嶺岡畜産会社の本社が置かれた。井戸跡、小社等が残るが、植樹などで遺構の小破壊が続く。

八丁陣屋跡に置かれた嶺岡畜産株式会社の本社



14 嶺岡東牧馬捕場



嶺岡東牧馬捕り場入り口の石積み



土手で3舁に分けられている



石積みした馬捕場外周の土手

嶺岡東牧馬捕場は、丘陵斜面をカットして壁とし、谷川を石積みの土手で造りだした空間を、土手で3舁に分け、溜込、捕込、払込としている。周辺施設など複雑な構造をなしている。

絵葉書になった明治時代の馬捕→





15 嶺岡東牧



丘陵斜面中腹に野馬堀を掘って斜面下位に積んだ野馬土手の内側に蛇紋岩を積み上げている



16 津倉池



60 近い牛馬の水飲み場のうち斜面下位を野馬土手で塞ぎ水飲み場としている津倉池

千葉県酪農のさと



嶺岡畜産株式会社の牛舎及び本社が置かれた地にある千葉県酪農のさと

棚田倶楽部（大山千枚田）

